

5 拡張不良となった膀胱に対する 漢方製剤使用の経験

名古屋大学大学院医学系研究科 泌尿器科学

松尾 かずな

我々泌尿器科医は、膀胱癌に対するBCGないし抗がん剤膀胱内注入療法、放射線照射、間質性膀胱炎をはじめとした難治性膀胱炎、免疫力の低下した患者などで起きるウイルス性膀胱炎の後に、しばしば拡張不良となった膀胱になった患者に出会う。萎縮した膀胱のために、著明な頻尿や尿失禁、拡張不良がゆえに充満時に起こる疼痛のため、生活の質が低下、重症例では良性疾患といえども膀胱全摘術を必要とする。

免疫調整作用と抗炎症作用を持つ小柴胡湯に、利尿作用を持つ五苓散の合剤である柴苓湯を中心に、証に合わせて方剤を調整、良好な結果となった症例を経験した。さらに柴胡剤には、時に生命に関わる合併症を起こすことも留意が必要であることも併せて報告する。